

## 2 入門 日本仏像彫刻史

【全6回】／開催方法：現地

まとの かつゆき  
的野克之

島根県立石見美術館  
非常勤職員



受講料 会員料金：¥10,600 早割価格：¥9,600（納入期限：5月6日）

【日 程】【全6回】 1回／月 第2金曜日  
(5/13、6/10、7/8、9/9、11/11、12/9)

【時 間】10:30～12:00

■受講に必要なもの

[テキスト] レジューメ配布

日本の仏像の歴史を学びます。皆さんは日本史を中学や高校で学ばれたと思います。しかし、仏像の歴史を学校で学んだ方はほとんどいないでしょう。せいぜい平安時代の国風文化のところで定朝が、そして鎌倉時代の東大寺復興のところで運慶・快慶が出てきたくらいだと思います。

仏像の歴史は、日本全体の歴史を無視して成り立つものではありません。天皇や貴族が力を持った時代は彼らに好まれた仏像が主流となりますし、武士が力を持てば彼らの好みが仏像に反映されます。

今回は、日本の歴史をざっとおさらいしながら、その時代の仏像の特徴や技法をお話しします。全国的な名品だけでなく、島根県内の仏像も取り上げます。

仏像の各時代の特徴を見てゆくことにより、初めて拝観する仏像の制作年代がだんだん分かるようになります。これが分かるようになれば、仏像拝観がより一層楽しくなります。

なお、過去にも仏像の歴史をお話ししたことがあります。今回は構成を新たに、奈良や京都といった中央と島根の動向を比較するなど、より身近に感じていただくようにします。

### 第1回 飛鳥時代

仏教が大陸から日本に伝わり、いよいよ日本にも仏像がやってきました。渡来人を祖父に持つ止利仏師が活躍しました。692年には出雲市鱒淵寺の金銅仏も出雲で造られました。

### 第2回 奈良時代

聖武天皇が全国に国分寺と国分尼寺を造るよう詔を出します。松江市にも造られました。奈良では奈良の大仏、阿修羅像など名品が生まれます。

### 第3回 平安時代前期

最澄と空海が中国へ渡り、密教を日本に伝えます。同時に日本になかった密教像が造られます。松江市佛谷寺、出雲市大寺薬師にこの時代の名品が残ります。

### 第4回 平安時代後期

日本人が死後の世界を意識するようになり、極楽に往くことを願う浄土教を信仰します。それに伴って仏像の様式も変わります。もっとも有名な像が宇治平等院の阿弥陀像です。安来市清水寺や松江市華蔵寺にも名品が残ります。

### 第5回 鎌倉時代

源平合戦で焼かれた東大寺と興福寺の復興に、いままでの京都の仏師だけではなく、奈良の仏師が大活躍します。彼らは源頼朝をはじめとする武士の支持を集めました。松江市浄音寺には京都で活躍していた仏師の像が残ります。

### 第6回 室町時代・江戸時代

室町時代は尼子家など戦国武将もスポンサーとなり仏像が造られました。松江市報恩寺には巨大な十一面観音像が残ります。江戸時代には戦国時代に焼けた寺院の復興が盛んに行われ、徳川幕府もスポンサーとなっています。また、貴族や武士だけでなく、豪商や豪農たちもスポンサーとして登場するようになりました。

\*一部内容が変更する場合があります。

### 【参考書】

『完本 仏像のひみつ』 著者：山本勉 出版社：朝日出版社 出版年：2021